証券コード6859

エスペック株式会社

2026年度（2027年3月期）第1四半期決算説明

2026年8月21日

2026年度第1四半期　決算概要

・受注高は、中計ターゲット市場のAI半導体分野、衛星通信分野が好調、欧州・韓国も回復し、前年同期比・予想比で大幅増
・売上高は、前年同期比で増加も、顧客都合により環境試験器・エナジーデバイス装置の大型案件の計上時期が第2四半期となり予想を下回る
・営業利益は、受注高の伸長に伴い販管費は増加したが、増収により前年同期比で増加、予想比では主に装置事業の売上計上時期のずれにより下回る

	前年同期比		予想比	
受注高	○	装置事業（環境試験器、エナジーデバイス装置）が増加、サービス事業（受託試験）とその他事業が減少	○	装置事業（すべての製品群）とその他事業が上回る、サービス事業は主に受託試験が下回る
売上高	○	装置事業（環境試験器）とその他事業が増加、サービス事業（受託試験）が減少	×	すべての事業が下回る 装置事業は主に大型案件の売上計上時期が2Qとなり未達、サービス事業は受託試験が下回る
営業利益	○	装置事業は増収により増加、サービス事業は主に受託試験の減収により減少、その他事業は赤字幅縮小	×	主に装置事業の売上計上時期の2Qへのずれ、受託試験の減収により下回る
親会社株主に帰属する当期純利益	○	営業利益の増加により増益	×	営業利益の未達より下回る

■ 株主還元　配当予想：中間45円、期末70円、年間115円　配当性向41.2%
自社株買い：2025年11月14日～2026年7月30日、90万株、32億円取得終了
2026年8月7日～2027年7月31日、上限130万株（発行済株式総数6.07%）、上限60億円を発表

損益の状況

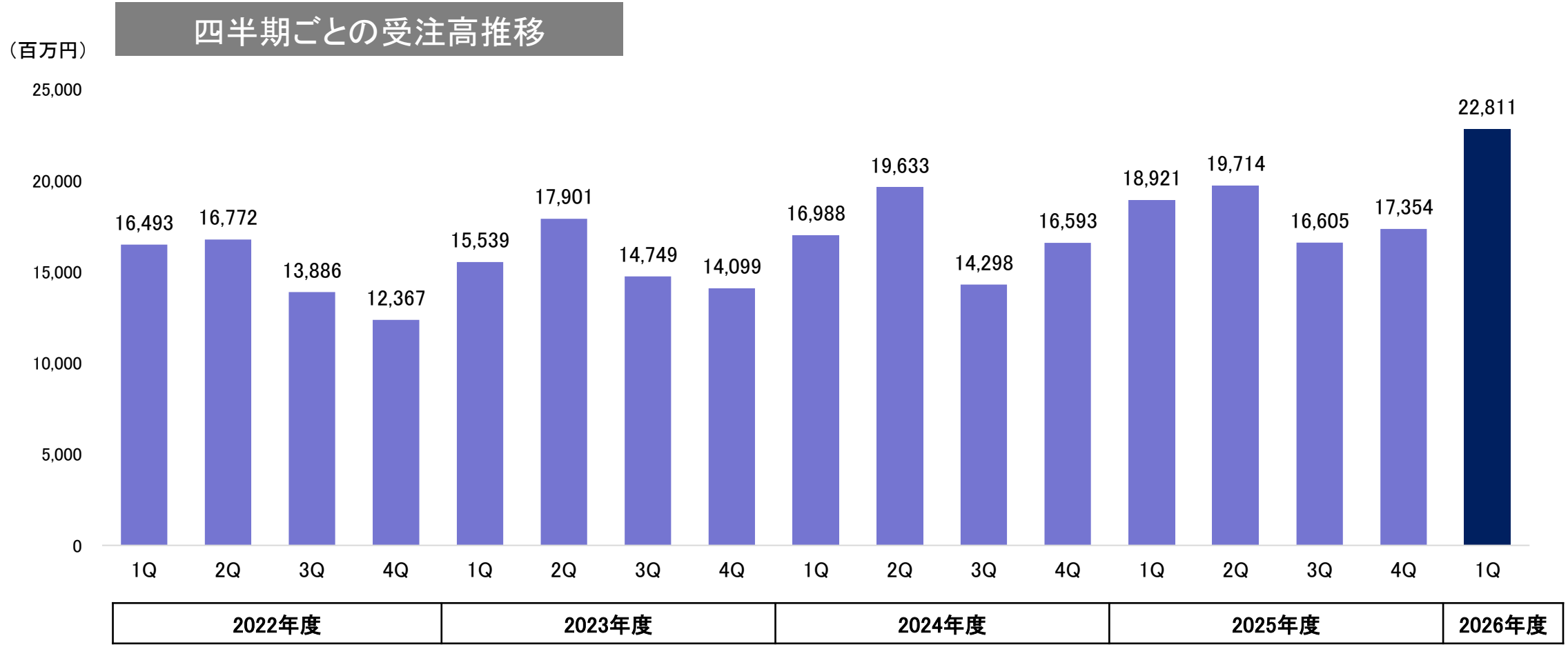
（百万円）	2025年度 1Q実績	2026年度 1Q実績	前年同期比
受注高	18,921	22,811	+20.6%
売上高	12,323	13,922	+13.0%
売上原価 原価率	8,125 65.9%	9,187 66.0%	+13.1% +0.1pt
売上総利益 利益率	4,197 34.1%	4,735 34.0%	+12.8% △0.1pt
販管費 販管費率	3,862 31.3%	4,353 31.3%	+12.7% ±0pt
営業利益 利益率	335 2.7%	382 2.7%	+14.1% ±0pt
経常利益 利益率	344 2.8%	527 3.8%	+53.1% +1.0pt
親会社株主に帰属する当期純利益 利益率	107 0.9%	155 1.1%	+43.9% +0.2pt

セグメント別の損益の状況

	（百万円）	2025年度 1Q実績	2026年度 1Q実績	前年同期比
装置事業	受注高	15,755	20,341	+29.1%
	売上高	10,344	11,963	+15.7%
	営業利益	418	480	+14.8%
	利益率	4.0%	4.0%	±0pt
サービス事業	受注高	2,266	2,077	△8.3%
	売上高	1,832	1,763	△3.8%
	営業利益	△41	△74	–
	利益率	△2.3%	△4.2%	△1.9pt
その他事業	受注高	1,025	531	△48.1%
	売上高	256	330	+29.1%
	営業利益	△41	△20	–
	利益率	△16.4%	△6.2%	+10.2pt
連結消去	受注高	△125	△139	–
	売上高	△109	△134	–
	営業利益	△0	△3	–
計	受注高	18,921	22,811	+20.6%
	売上高	12,323	13,922	+13.0%
	営業利益	335	382	+14.1%
	利益率	2.7%	2.7%	±0pt

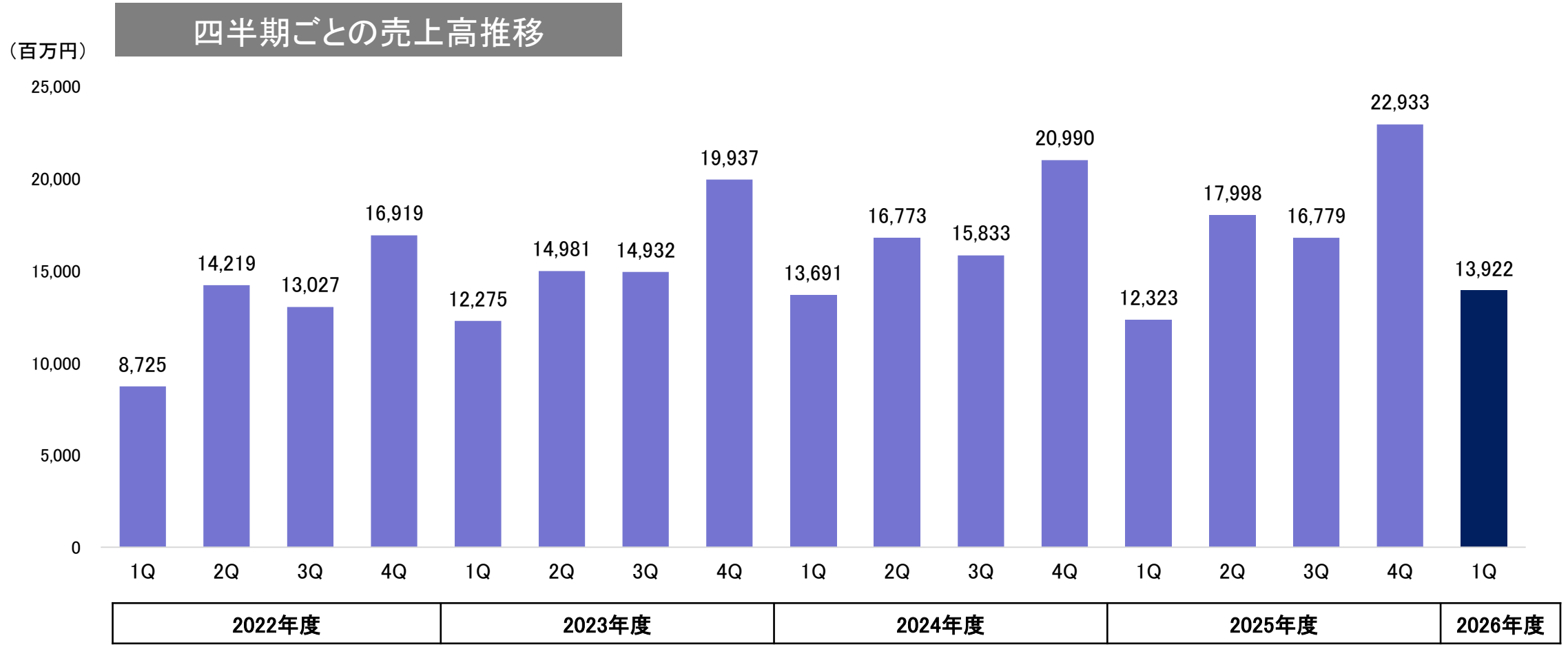
四半期ごとの受注高推移

■受注高は、AI半導体分野、衛星通信分野が好調に推移（ターゲット市場 前年同期比約20%増）、
エリアでは、北米、中国が好調、欧州、韓国も回復、四半期受注高が初めて200億円超となり大幅伸長



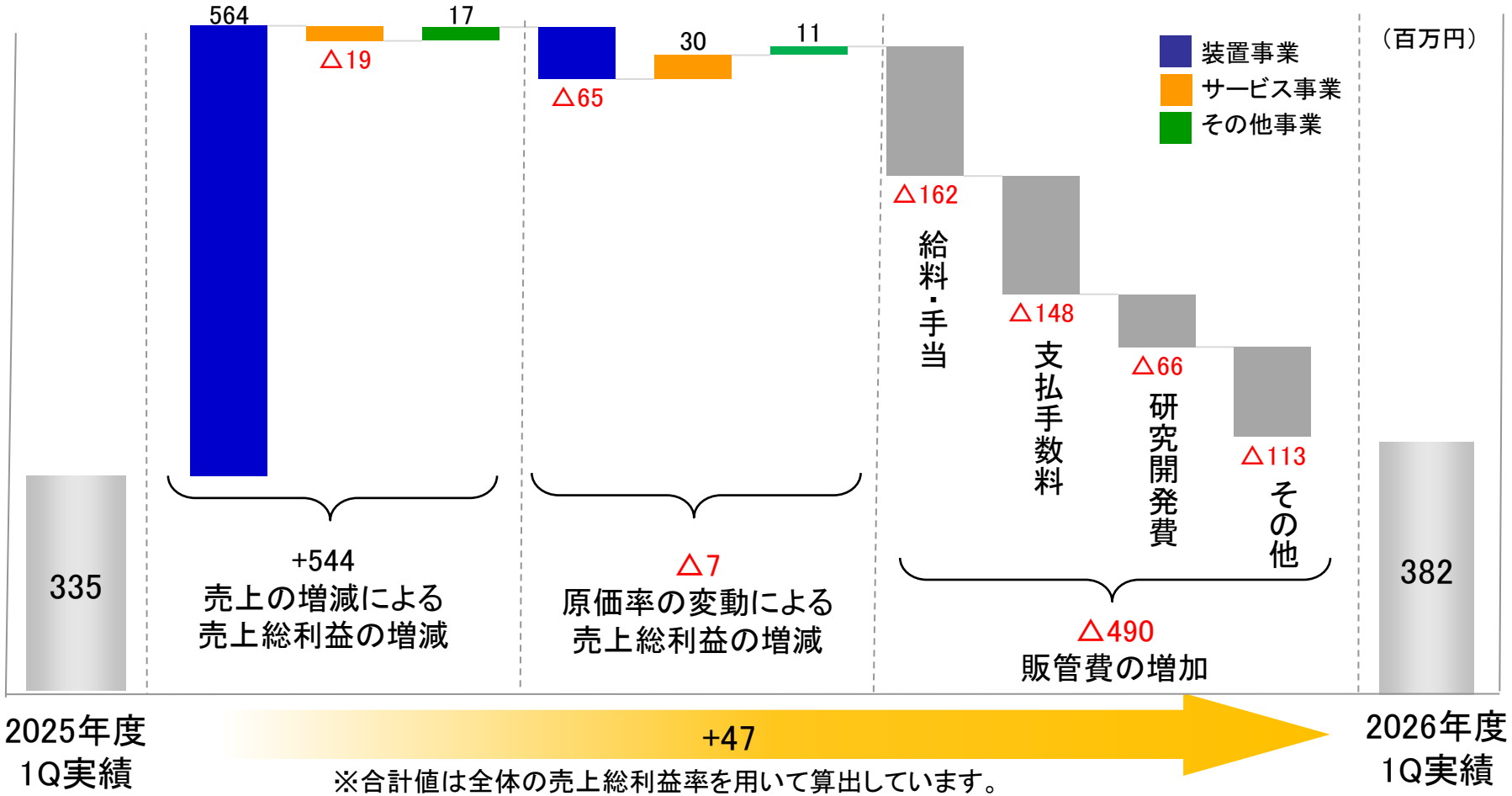
四半期ごとの売上高推移

■売上高は、環境試験器・エナジーデバイス装置において、主に顧客都合により
大型案件の売上計上時期が2Qとなったが前年同期を上回る



営業利益の増減要因分析

・装置事業は、原価率は主に中国市場にて悪化したが、増収により増益
・サービス事業は、アフターサービスは技術料改定により収益性は改善したが、受託試験の減収により減益
・受注高の伸長による活動費および商品価値向上に向けた研究開発費の拡大により、販管費が増加



※合計値は全体の売上総利益率を用いて算出しています。

装置事業セグメント

（百万円）	2025年度 1Q実績	2026年度 1Q実績	前年同期比
受注高	15,755	20,341	+29.1%
売上高	10,344	11,963	+15.7%
営業利益 利益率	418 4.0%	480 4.0%	+14.8% ±0pt

環境試験器

■ 国内では、受注高は汎用性の高い標準製品、カスタム製品ともに前年同期並み、
売上高は大型案件の計上時期が第2四半期にずれ込んだことにより減少

■ 海外では、受注高は前年同期比で北米、中国において大幅に増加するとともに、欧州、韓国、東南アジアも増加
売上高は北米、中国、東南アジア、台湾が増加し、韓国は減少

エナジーデバイス装置

■ 受注高はEVバッテリー向け充放電評価システムの案件を獲得し、前年同期比で増加、
売上高は大型案件の計上時期が第2四半期にずれ込んだことにより減少

半導体関連装置

■ 試験需要は堅調に推移するも、第1四半期においては受注高・売上高ともに減少

サービス事業セグメント

（百万円）	2025年度 1Q実績	2026年度 1Q実績	前年同期比
受注高	2,266	2,077	△8.3%
売上高	1,832	1,763	△3.8%
営業利益 利益率	△41 △2.3%	△74 △4.2%	－ △1.9pt

アフターサービス・エンジニアリング

■ 予防保全サービス・修理サービスともに堅調に推移し、前年同期比で受注高・売上高ともに増加

受託試験・レンタル

■ 受託試験サービスにおいて、自動車関連の投資抑制や開発計画変更の影響を受け、
前年同期比で受注高・売上高ともに減少

その他事業セグメント

（百万円）	2025年度 1Q実績	2026年度 1Q実績	前年同期比
受注高	1,025	531	△48.1%
売上高	256	330	+29.1%
営業利益 利益率	△41 △16.4%	△20 △6.2%	－ +10.2pt

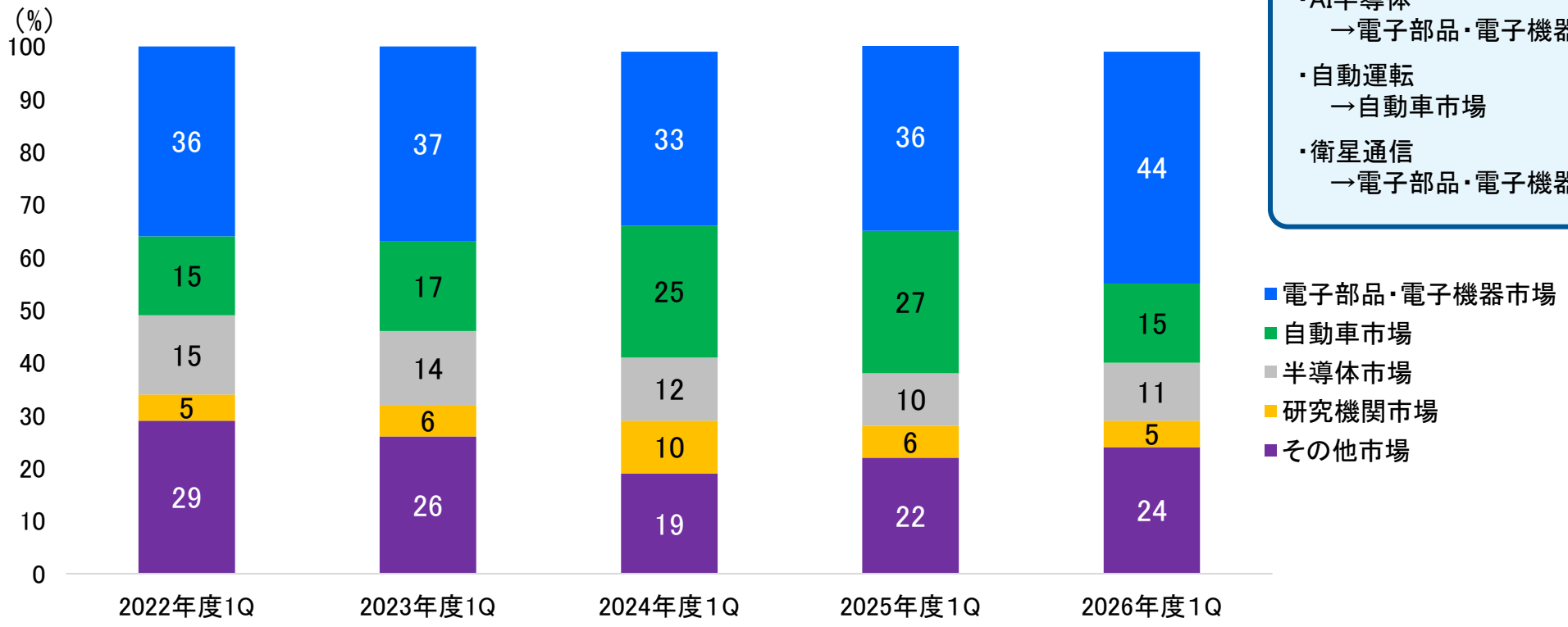
環境保全・植物育成装置

■ 受注高は植物工場の大型案件のあった前年同期との比較で減少、
売上高は前期受注の植物工場の計上により増加

市場別売上構成比

■ 電子部品・電子機器市場は、AI半導体関連の試験需要が好調に推移し、大きく増加
自動車市場は、大型案件の期ズレにより大きく減少

単体(装置事業)



＜ターゲット市場との関連＞

・AI半導体
→電子部品・電子機器、半導体市場

・自動運転
→自動車市場

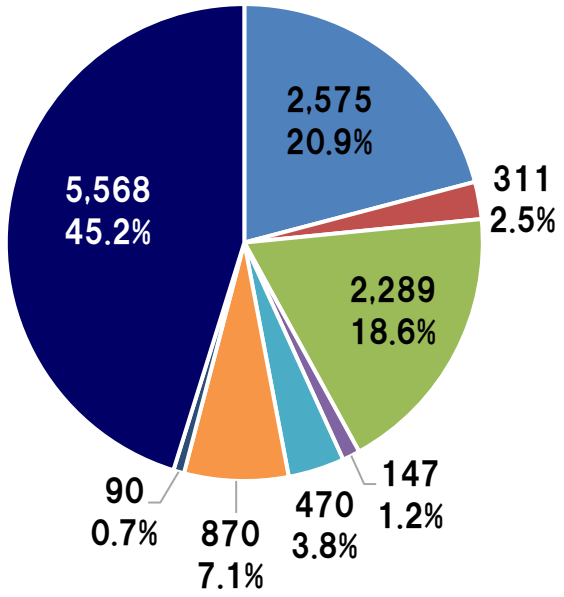
・衛星通信
→電子部品・電子機器市場

地域別売上構成比

■ 売上高は北米、中国、東南アジア・インド、欧州、台湾が増加、日本、韓国は減少

2025年度 1Q

海外売上高比率：54.8%

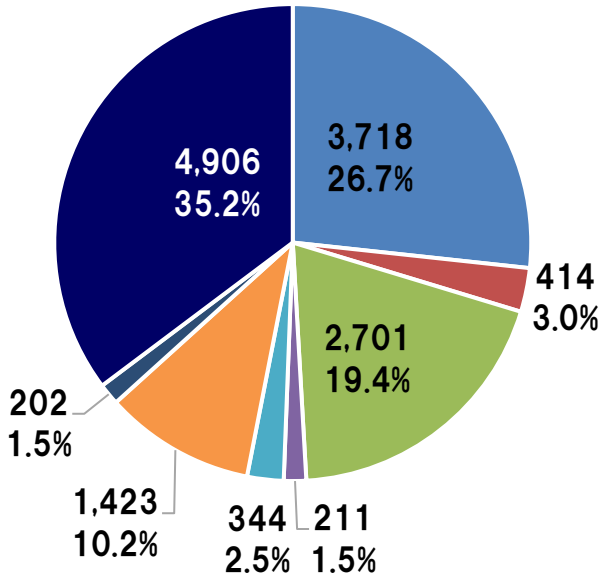


計 12,323百万円
海外：6,754百万円
国内：5,568百万円

北米
欧州
中国
台湾
韓国
東南アジア・インド
その他
日本

2026年度 1Q

海外売上高比率：64.8%



計 13,922百万円
海外：9,016百万円
国内：4,906百万円

2026年度 想定為替レート

■想定為替レート

	2024年度	2025年度		2026年度
	通期実績	上期実績	通期実績	通期想定
USドル（円）	152.62	146.03	150.67	155
ユーロ（円）	163.87	168.05	174.64	180
元（円）	21.11	20.29	21.22	22

2026年度為替感応度

（百万円）

	売上高	営業利益
USドル	+97	+14
ユーロ	+15	+8
元	+50	+6

※1円円安（元は0.1円）変動時の影響

2026年度業績予想

（百万円）	2025年度	2026年度				
	通期実績	1Q 実績	予想			
			上期	下期	通期	前期比
受注高	72,596	22,811	35,800	34,200	70,000	△3.6%
売上高	70,034	13,922	33,800	39,200	73,000	+4.2%
売上原価 原価率	45,739 65.3%	9,187 66.0%	21,650 64.1%	24,950 63.6%	46,600 63.8%	+1.9% △1.5pt
売上総利益 利益率	24,295 34.7%	4,735 34.0%	12,150 35.9%	14,250 36.4%	26,400 36.2%	+8.7% +1.5pt
販管費 販管費率	17,210 24.6%	4,353 31.3%	9,000 26.6%	9,400 24.0%	18,400 25.2%	+6.9% +0.6pt
営業利益 利益率	7,084 10.1%	382 2.7%	3,150 9.3%	4,850 12.4%	8,000 11.0%	+12.9% +0.9pt
経常利益 利益率	7,473 10.7%	527 3.8%	3,250 9.6%	4,850 12.4%	8,100 11.1%	+8.4% +0.4pt
親会社株主に帰属する当期純利益 利益率	5,879 8.4%	155 1.1%	2,300 6.8%	3,580 9.1%	5,880 8.1%	+0.0% △0.3pt
1株当たり当期純利益（円）	270.39	7.32	108.93	170.02	278.95	+3.2%
ROE	10.0%	—	—	—	10.0%	±0pt

2026年度 セグメント別の業績予想

（百万円）		2025年度	2026年度				
		通期実績	1Q実績	予想			
				上期	下期	通期	前年同期比
装置事業	受注高	62,216	20,341	30,700	28,750	59,450	△4.4%
	売上高	59,468	11,963	29,350	33,200	62,550	+5.2%
	営業利益	6,606	480	3,010	4,060	7,070	+7.0%
	利益率	11.1%	4.0%	10.3%	12.2%	11.3%	+0.2pt
サービス事業	受注高	8,294	2,077	4,500	4,700	9,200	+10.9%
	売上高	8,327	1,763	4,070	5,080	9,150	+9.9%
	営業利益	228	△74	190	650	840	+268.0%
	利益率	2.7%	△4.2%	4.7%	12.8%	9.2%	+6.5pt
その他事業	受注高	2,529	531	850	1,050	1,900	△24.9%
	売上高	2,747	330	630	1,220	1,850	△32.7%
	営業利益	239	△20	△50	140	90	△62.4%
	利益率	8.7%	△6.2%	△7.9%	11.5%	4.9%	△3.8pt
連結消去	受注高	△442	△139	△250	△300	△550	－
	売上高	△507	△134	△250	△300	△550	－
	営業利益	10	△3	0	0	0	－
計	受注高	72,596	22,811	35,800	34,200	70,000	△3.6%
	売上高	70,034	13,922	33,800	39,200	73,000	+4.2%
	営業利益	7,084	382	3,150	4,850	8,000	+12.9%
	利益率	10.1%	2.7%	9.3%	12.4%	11.0%	+0.9pt

2026年度 投資計画

（百万円）	2025年度	2026年度 予想			
	通期実績	上期	下期	通期	前期比
設備投資額	2,004	1,390	2,530	3,920	+95.5%
減価償却費	1,957	1,000	1,080	2,080	+6.3%
研究開発費	1,521	1,060	1,010	2,070	+36.1%

主な投資内容
・福知山工場リノベーション
・北米子会社生産エリア拡張

主な開発内容
・AI半導体分野向け製品ラインアップ拡充
（主力製品のモデルチェンジ、機種追加）
・環境配慮型製品の拡充

株主還元方針と2026年度配当予想

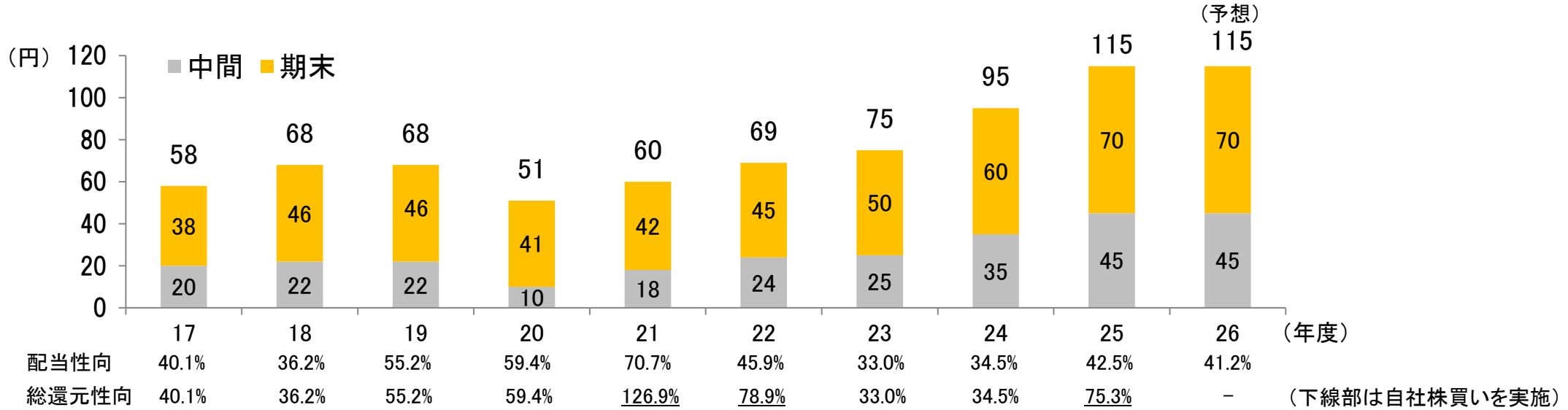
株主還元方針

配当性向を40%以上とし自己株式取得を機動的に実施

中期経営計画「PROGRESSIVE PLUS 2027」（2025～2027年度）の期間は、3年間累計で総還元性向を50%以上とし減配しない

一株当たり配当金と配当性向・総還元性向

2026年度は年間115円、配当性向41.2% を予想。2026年8月6日、自社株買いを発表（2026年8月7日～2027年7月31日、上限130万株：発行済株式総数6.07%、上限60億円を予定）　※2026年度の配当性向には本自社株買いによる影響を考慮しておりません



自己株式の消却に関する基本方針

自己株式の保有上限は発行済株式総数の10%程度とし、保有上限を超過した場合は原則として超過相当分を消却する

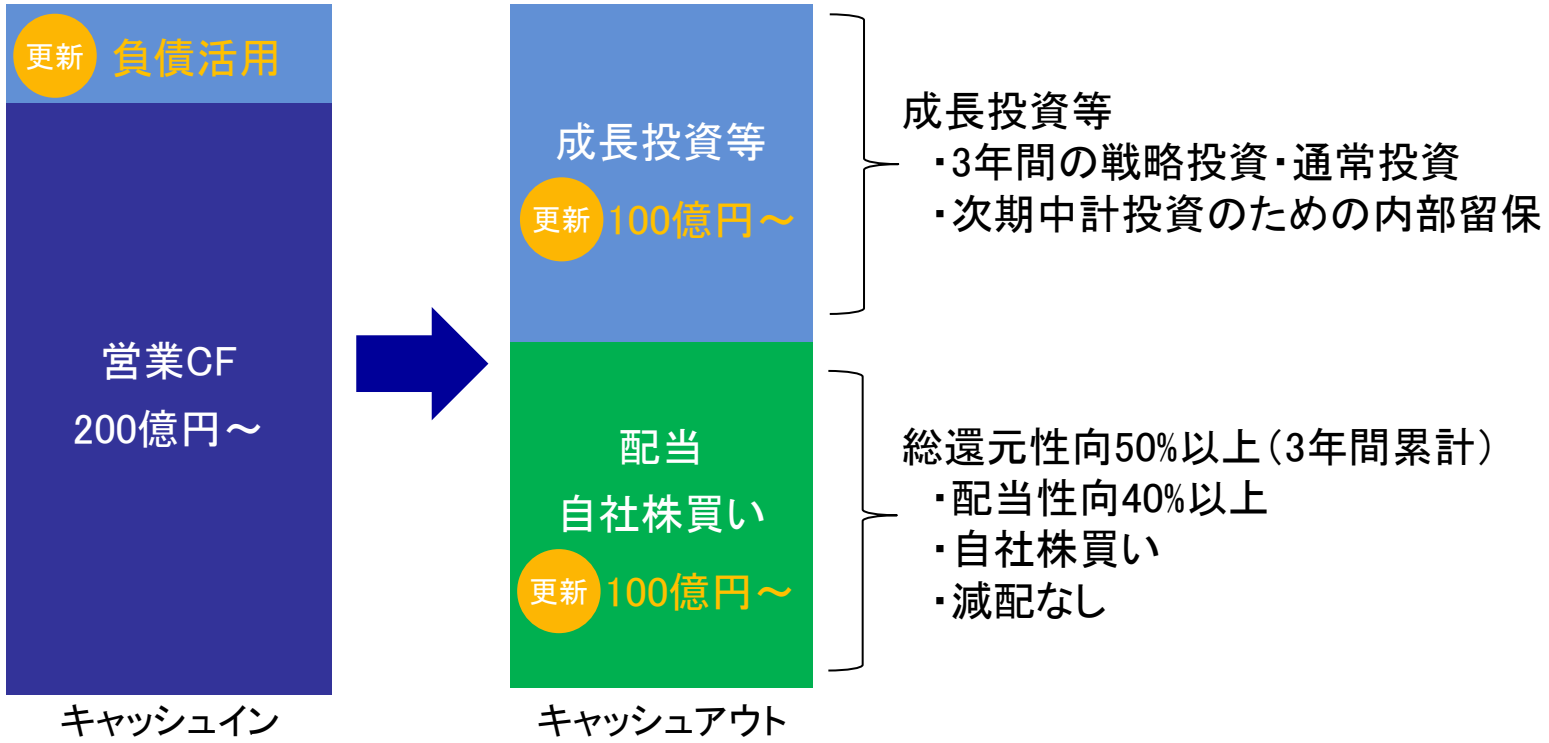
キャッシュ・アロケーション（2025～2027年度）

キャッシュ・アロケーション方針

3年間で創出したキャッシュを成長投資と株主還元に積極的に配分する

※2026年5月更新

資本効率を重視し、成長投資や企業価値向上に向けて必要に応じて負債を活用する
株主還元として自社株買いについても機動的に判断し、実施する



資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応方針

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応方針を更新　＜2026年5月14日開示＞

財務資本戦略強化により資本収益性を高め、中計目標2027年度ROE12%以上の達成を目指す

方針

※下線は2026年5月更新内容

・中期経営計画「PROGRESSIVE PLUS 2027」の 2027 年度目標（売上高760億円、営業利益91億円、営業利益率12.0%、当期純利益67億円、ROE12.0%以上）の達成を目指す

・営業利益率の向上と総資産の効率化によるキャッシュの創出と必要に応じた負債の活用

・資本効率を重視したBSマネジメントとして、自己資本比率70%以内、手元流動性3カ月以内を指標とし、資本をコントロールする

・3年間のキャッシュアロケーション方針に基づき、成長投資と株主還元を積極的に行う

主な取り組み

①収益性の向上	AI半導体や自動運転、衛星通信分野をターゲットとした成長戦略の実行、収益力の強化
②財務戦略 株主還元	棚卸資産の適正化と売上債権の圧縮、資本のコントロール 株主還元方針（P.15）に基づく積極的な株主還元の実施
③IR活動の強化	株式市場での評価向上および経営強化に向けた株主・投資家との対話充実

2026年度 事業の主な取り組み

装置事業

・ターゲット市場における新規ニーズの探索と事業機会の獲得
・試験要求に適合した高付加価値製品の開発、市場投入
・カスタマイズ容易性向上による製品リードタイム短縮

グローバル戦略

日本　：AI半導体、衛星通信分野の営業活動強化、買い替え需要の獲得
北米　：衛星通信分野の販売強化、生産能力増強による収益拡大
中国　：半導体、電子部品・電子機器分野への販売強化

サービス事業

アフターサービス：保守契約サービスの拡販、稼働率改善による原価低減
受託試験　　：半導体、航空機器関連の受注獲得、収益改善

2026年度 ESGの主な取り組み

■E（環境）

・第8次環境中期計画　Plus Ⅱ（2026～2027年度）の推進

地球温暖化対策の強化、生物多様性保全の推進、資源循環の推進と化学物質管理の強化、開示情報の充実（CDP、TCFD、TNFD）

■S（社会）

・ビジョン実現型人事制度の定着、インターナルコミュニケーションの推進

・ワークシェア制度の導入、健康経営の推進

・経営補佐職層向け株式報酬制度の運用開始

■G（ガバナンス）

・グループガバナンスの強化

・サプライチェーンリスク対策

・リスクマネジメントの強化

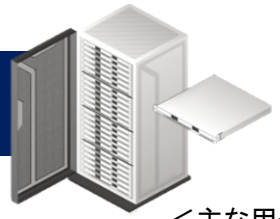
ターゲット市場 ＜AI半導体市場／データセンター＞　サーバー、半導体、電子部品、電子材料

生成AIが社会全体に広まるなか、AIサーバーやサーバーを構成する半導体、ストレージ、電子部品、電子材料の信頼性評価を目的に環境試験の需要が高まっています。



データセンター

AIサーバー



＜主な納入先＞
・サーバーメーカー
・ハイパフォーマンス
コンピューティング（HPC）メーカー

＜主な用途＞
耐久性（耐環境）評価
信頼性評価



AIサーバー向け
高発熱負荷対応恒温恒湿室

半導体、ストレージ
GPU・メモリ・ロジック



＜主な納入先＞
・半導体メーカー
・ファウンドリー

＜主な用途＞
加速寿命試験
スクリーニング（検査）



急速温度変化チャンバー

電子部品
コンデンサ・半導体基板・電源



＜主な納入先＞
・電子部品メーカー
・半導体基板メーカー

＜主な用途＞
電気的特性評価（導通等）
動作試験

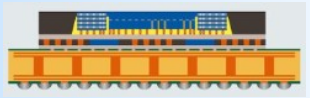


高度加速寿命評価装置
（HAST CHAMBER）



計測評価システム

電子材料
基板材料・絶縁材料



＜主な納入先＞
・材料メーカー
（基材、レジスト材、モールド材等）

＜主な用途＞
材料特性評価（吸湿等）
保存試験



バーンインチャンバー

ターゲット市場

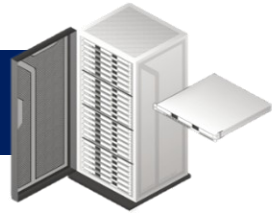
＜AI半導体市場／データセンター＞　光電融合技術（CPO: Co-Packaged Optics）

光電融合技術は半導体と光通信用の光学コンポーネントを同一パッケージ基板上に統合する技術です。
サーバーの消費電力削減や通信速度向上に有効な技術として注目されており、
光学コンポーネントや実装技術の開発、信頼性評価を目的に環境試験の需要が高まっています。

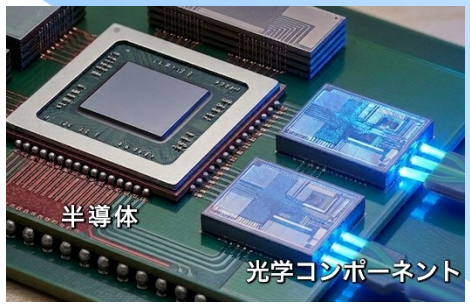


データセンター

AIサーバー



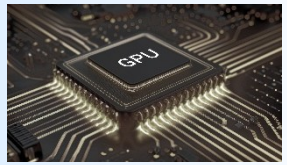
光電融合技術
（Co-Packaged Optics）



半導体と光学コンポーネントを
同一パッケージ基板上に統合

半導体
GPU・CPU

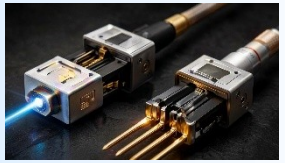
＜主な納入先＞
・半導体メーカー
・ファウンドリー



＜主な用途＞
パッケージ信頼性評価

光学コンポーネント
変調器、検出器、コネクタ

＜主な納入先＞
・電子部品メーカー
・電線メーカー



＜主な用途＞
耐久性評価（温湿度）
信頼性評価



冷熱衝撃装置



急速温度変化チャンバー



ハイパワー
恒温恒湿器



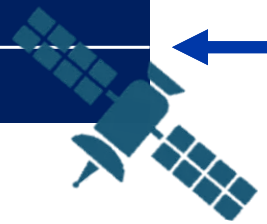
小型環境試験器

ターゲット市場

＜衛星通信市場＞　人工衛星（低軌道衛星）、人工衛星搭載機器・部品

民間企業の商用衛星通信技術の分野において、低軌道衛星（LEO）や人工衛星に搭載される通信機器や半導体、電子部品の信頼性評価を目的に環境試験の需要が高まっています。

人工衛星
低軌道衛星（LEO）



高度　　：数百～2,000km
地上エリア：半径 数百km

＜主な納入先＞
・通信衛星メーカー

＜主な用途＞
耐久性（耐環境）評価
信頼性評価



HALT/HASS Reliability Testing Systems
（HALT/HASS試験装置）

人工衛星搭載機器
電源装置・通信機器・姿勢制御

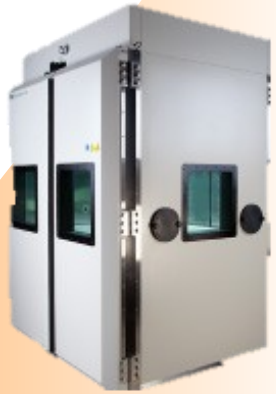
＜主な納入先＞
・電源機器メーカー
・通信機器メーカー
・観測機器メーカー

＜主な用途＞
耐久性（耐環境）評価
信頼性評価

人工衛星搭載部品
半導体・太陽光パネル・電池

＜主な納入先＞
・半導体メーカー
・電子部品メーカー
・電池メーカー

＜主な用途＞
認定試験
スクリーニング（検査）



HALT/HASS
Reliability Testing Systems
（HALT/HASS試験装置）



Global-N
Temperature Cycling Chambers
（温度サイクル試験装置）



Platinous Series
Temperature and Humidity Chambers
（恒温恒湿器）



冷熱衝撃装置



恒圧恒温（恒湿）器
MZシリーズ

TOPICS 1

AI半導体市場向け新製品

■低電流導体信頼性評価システム「AMR-SPM」

・2026年7月、低電流で微小抵抗変動を捉える
　低電流導体信頼性評価システム「AMR-SPM」を発売
・先端パッケージ開発におけるマイクロビアやインターポーザー
　などの微細配線・接合部の信頼性評価を支援



低電流導体信頼性評価システム AMR-SPM

■低電圧絶縁信頼性評価システム「AMI-SPM」

・2026年7月、低電圧領域の絶縁劣化をより高精度に捉える
　低電圧絶縁信頼性評価システム「AMI-SPM」を発売
・先端パッケージに採用される10V以下の低電圧印加と、
　低電圧領域で発生する絶縁劣化に対応



低電圧絶縁信頼性評価システム　AMI-SPM

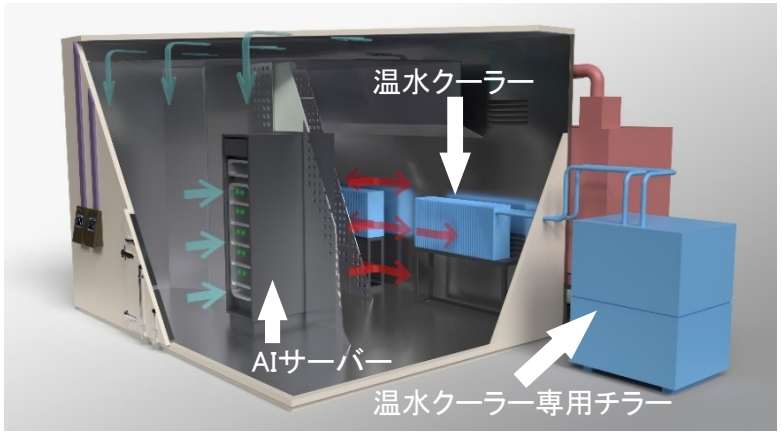
TOPICS 2

AIサーバー市場向け新製品

■高発熱負荷対応 恒温恒湿室ウォークインチャンバー

・2025年12月、AIサーバーの信頼性評価用として、高発熱負荷に対応した2機種を発売
・サーバーによる発熱負荷（30kW、60kW）に対し、独自の制御システムにより精密な温湿度制御を実現
・サーバーの信頼性評価に適用される試験規格ASHRAEに適合した試験が可能

＜AIサーバーの試験イメージ＞



新たに開発した空調システムにより、省エネ・省スペース化を実現



高発熱負荷対応
恒温恒湿室ウォークインチャンバー

TOPICS 3

生物多様性保全活動の拠点 神戸R&Dセンター
「令和8年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」を受賞

・2026年4月、神戸R&Dセンターが「令和8年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」を受賞
・社員が約3万本の在来種を植樹し育てた森や、六甲北部の在来種を用いた技術開発棟の屋上緑地、
　2つの池と小川からなるビオトープを設置
・2023年10月には、環境省「自然共生サイト」に認定され、OECM※として国際データベースに登録





※OECM (Other Effective area based Conservation Measures): 保護地域以外で生物多様性保全に資する地域

社外からの評価

■ ESG関連の評価

・ESG指数「FTSE JPX Blossom Japan Sector Relative Index」組み入れ
　ESG指数「S&P/JPXカーボン・エフィシェント指数」組み入れ

・CDP 気候変動分野の調査で6年連続「Bスコア」、水セキュリティは2年連続「B-スコア」
　「サプライヤーエンゲージメント評価」では、4年連続最高評価の
　「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」に選定

・日本経済新聞社「日経サステナブル総合調査 SDGs経営編」3.5星

・日本経済新聞社「日経サステナブル総合調査 スマートワーク経営編」 3つ星

・神戸R&Dセンターが「令和8年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」受賞

・厚生労働大臣より「子育てサポート企業」として「プラチナくるみん」取得

・大阪市「女性活躍リーディングカンパニー」認証にて
　「三つ星認証」「イクメン推進企業認証」取得

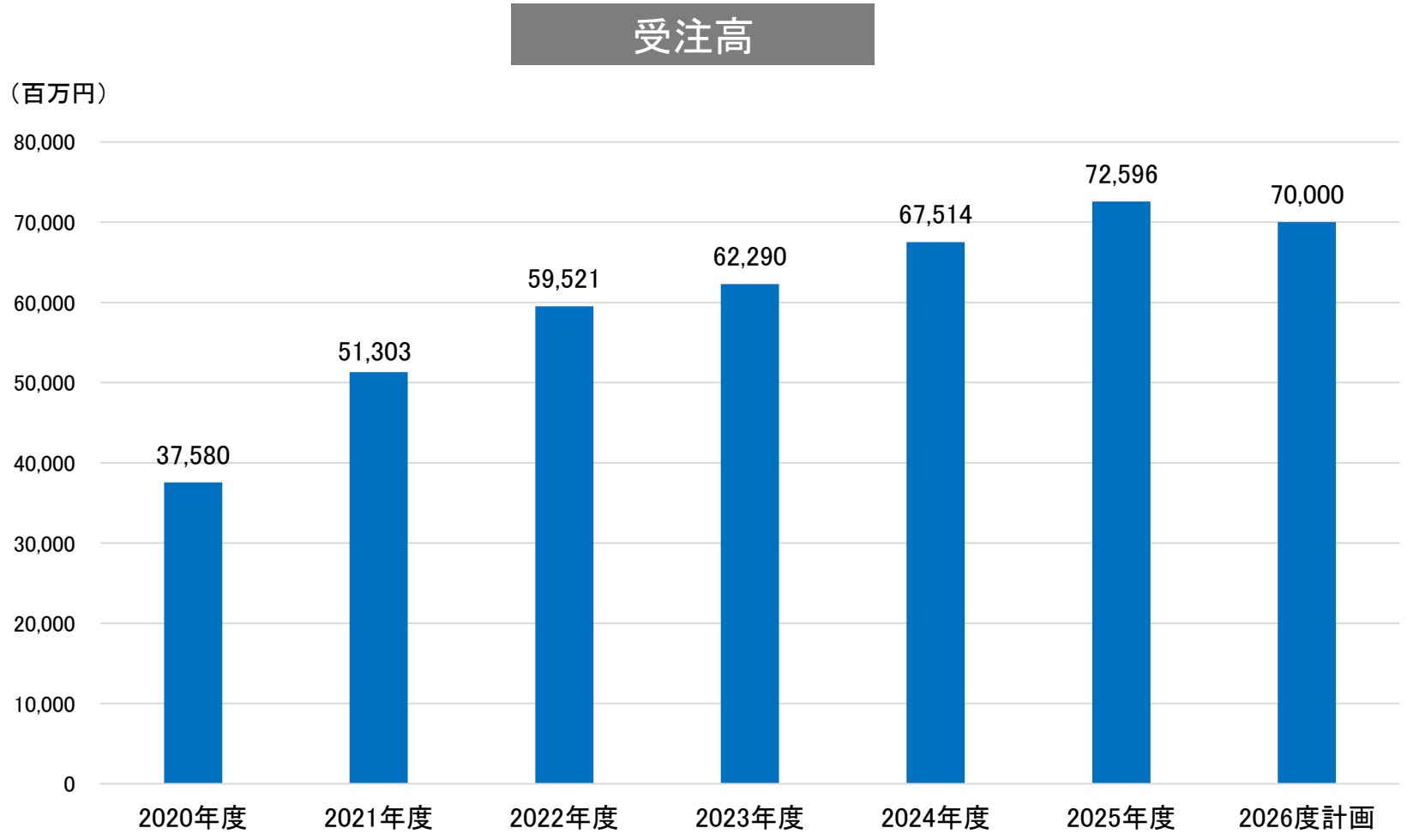
■ IRサイトの評価

・「Gomez IRサイトランキング」 銀賞（業種別5位）

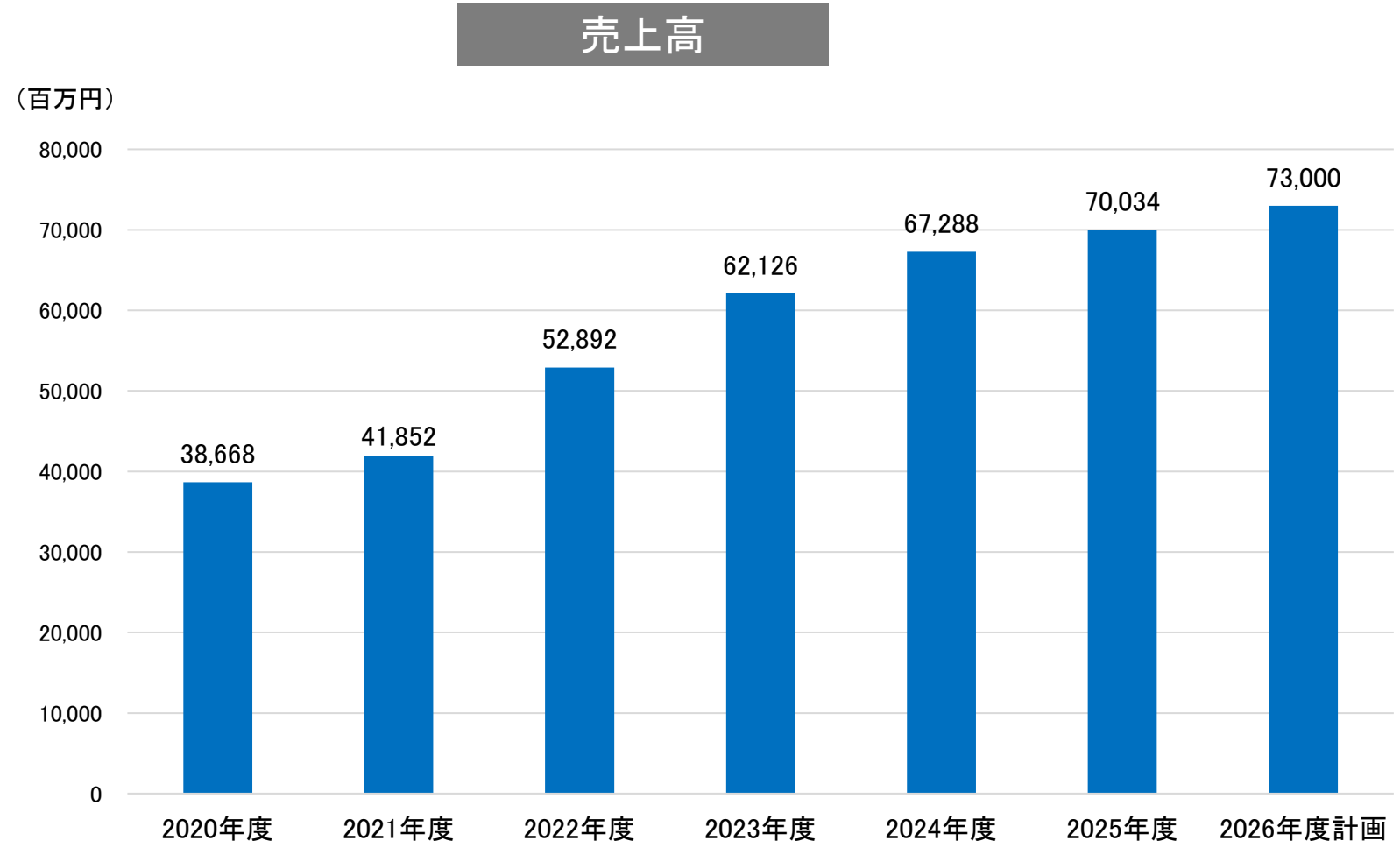
・「大和インターネット IR表彰」 優良賞

・ 日興アイ・アール「全上場企業ホームページ充実度ランキング」 最優秀サイト

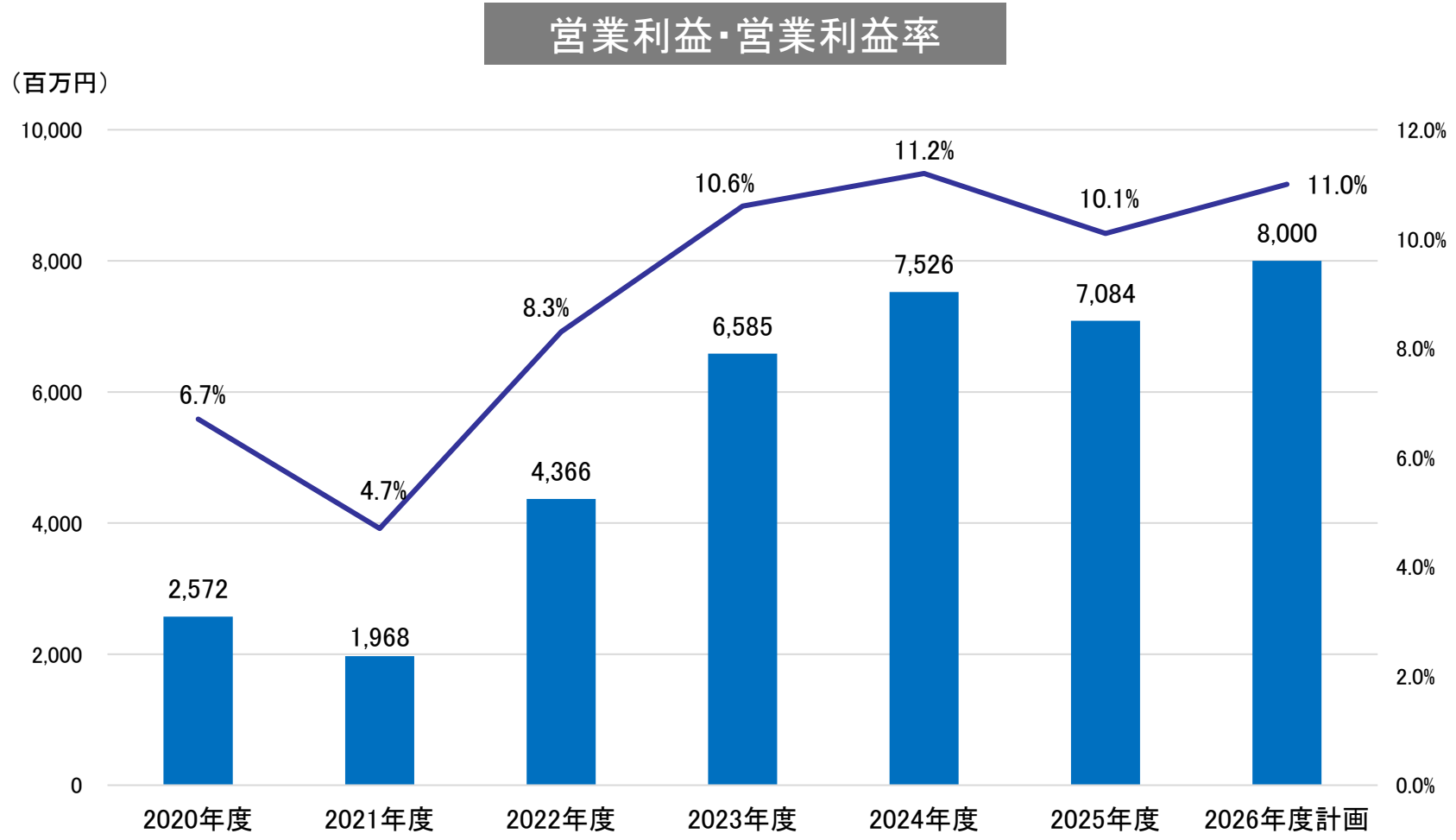
受注高推移


受注高
（百万円）
80,000
70,000
60,000
50,000
40,000
30,000
20,000
10,000
0
37,580
51,303
59,521
62,290
67,514
72,596
70,000
2020年度
2021年度
2022年度
2023年度
2024年度
2025年度
2026度計画

売上高推移


売上高
（百万円）
80,000
70,000
60,000
50,000
40,000
30,000
20,000
10,000
0
38,668
41,852
52,892
62,126
67,288
70,034
73,000
2020年度
2021年度
2022年度
2023年度
2024年度
2025年度
2026年度計画

営業利益・営業利益率推移



この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。
それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、
当社が計画・予測したものであります。
実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があり、
この資料はその実現を確約したり、保証するものではございません。

【お問い合わせ先】
エスペック株式会社
サステナビリティ推進部　IR・広報グループ
〒530-8550　大阪市北区天神橋3-5-6
TEL　06-6358-4744　　FAX　06-6358-4795
E-mail　ir-div@espec.jp

Quality is more than a word

